

沈黙

モウニ
ババ

沈黙を通して初めて、
人間と神秘なる神との
出会いが可能となる。

Moune
1971.

Moune
1971.

沈黙

モウニ・ババ

ババジのクリヤー・ ヨーガ出版

St. Etienne de Bolton, Quebec, Canada

Silence

by Mouni Baba

Babaji's Kriya Yoga and Publications, Inc.
196 Mountain Road, P.O. Box 90,
Eastman, Quebec, Canada J0E 1P0
Telephone: 450-297-0258; 1-888-252-9642; fax: 450-297-3957

www.babajiskriyayoga.net · email: info@babajiskriyayoga.net

Copyright © 2013 by Babaji's Kriya Yoga and Publications, Inc.

All rights reserved. No part of this pamphlet may be reproduced or utilized in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording, or by any information storage and retrieval system, without permission in writing from the publisher.

Cover design and graphic layout: David Lavoie
Cover page is a portrait drawing of Mouni Baba done in 1971

出版社による紹介

悟りを得た存在が著した作品を繰り返し読めば、最後にはそこに表現された真理の体験が魂に触れます。沈黙の中でそれに耳を傾けてください。

自らの内に最高の教師を見出せなければ、精神体や生気体、肉体を自分だと錯覚し、サーダナや人生においてもがき苦しむこととなります。自らの魂が前面に現れ、自らを導き、進歩が保障されていると安心できるまで、沈黙に耳を傾けられるようになる必要があります。最後には、サーダナが努力しなくとも自然に展開し、自らの存在のすべてが魂の方を向き、いつでも無条件の幸福・愛を感じ、真理を見通すことができ、高次の意識に立ち返ります。

シュリ・モウニ・ババ（1932－2010）は、インドのケララ州生まれの最高のグルであり、シュリ・シルディ・サイ・ババの系統に属し、人生の最後の50年間を沈黙の内に過ごし、サイ・ババの力と権威を発していました。ババジのクリヤー・ヨーガ出版は、モウニ・ババの信者であり、ババがやって来るすべての人に注いだ神秘の愛を知るシュリ・ハリ・ナラヤナンからこの美しい文章を世界と分かち合うことを認められました。ハリ・ナラヤナンは、ウパニシャッドの深遠さを持ち合わせているので、この文章をモウニパニシャッドと呼びたいと言います。



沈黙

沈黙を通して、人と神という神秘が初めて出会う。

愛しの父の臨在は沈黙に満ち満ちているため、人は今にも啓示が顕されると期待する。しかしもたらされるのはさらなる沈黙だけである。神の沈黙は現実。沈黙において、神は、愛する者たちの愛を受け取り、神を否定する者たちを愛す。

ヨーギの沈黙は神秘的である。沈黙が完全なるものになった時にのみ、啓示が可能となる。ヨーギにとって、沈黙は内なる自由に対する喜びの表現である。沈黙において、ヨーギは神の至福の歌である神聖な言葉を聞く。神は沈黙の中で永遠に歌い続けている。神の無限の沈黙を経験するもの以外には気づかれも、聞こえもしない。声という喧騒を超えて、神の沈黙が支配する。沈黙において、神への全託が可能になる。その時、完全なる栄光、無限なる力、自存の知識、永遠の存在の中で神が明らかになる。

沈黙、それは純粹なる存在。純然たる意味においては、沈黙には始まりも終わりもない。唯一の実在として留まる。永遠なる自存の存在である。沈黙は遍在する実在であるが、それを経験しているものは少ない。この経験は他のいかなる経験とも異なる。沈黙を経験することは沈黙に没頭することである。神を知りたいと思うのならば、自らも含めてすべてを失わなければならない。初めなき始まりから、終わりなき終わりまで語られる言葉のすべても神の無限なる沈黙の中に消える。恵みは、完全なる沈黙からもたらされる言葉である。神は神聖なる言葉でこの宇宙を創造した。沈黙においてのみ、神の言葉を聞くことができる。語ることを避けるだけでは、沈黙からは程遠い。沈黙が道を示さないのであれば、その見かけの静けさは怠惰である。怠惰に身を任せれば、人生は悲劇となる。沈黙は不活動ではない。沈黙は活動も不活動も超えている。

沈黙のみが存在する世界のことを考えたことがあるだろうか。沈黙の世界には、永遠が存在する。沈黙には無時間という純粹な時間が存在する。沈黙は根源的な現象であり、辿って行ってもどこにも辿りつかない。沈黙において、人はすべての物の基を見ることができる。沈黙には、限定されていないものと限定されたものが一緒に存在する。沈黙は音声がなくとも存在する。しかし、音声は沈黙がな

ければ存在しない。生命の木に沈黙という栄養を注ぐと、幸せと満足の花が咲き乱れる。人間の悲しみと不幸のすべては、沈黙が破裂してしまったことが原因である。現在の人間の生活を見ると、沈黙の廢墟のようである。

人間の言葉に権威はない。純然たる意味において、言葉のすべてはあまりに融通が利かない。なぜなら実在をほのめかすだけだからである。達成への道が存在するならば、言葉は有用である。偉大なる存在の言葉からインスピレーションを受けられる。真面目な求道者に道を選んであげることよりも世の中全体を教えることの方が理屈では簡単だ。単純な言葉が最も真理を伝える。長々とした論理、言い回し、解説はおそまつであり、無知の上塗りである。真理の求道者は、沈黙において完全なる存在に導かれ、謙虚にヨーギの道を歩む。人が永遠を悟った時、カルマは解消され、目的地に至る。目的地に到達した時、今という意識のみが残る。今に生きる時、もはや目的地は存在しない。

探すことをやめた時、安らぎが訪れる。精神的鍛練や外的援助によって、無理やりもたらすことはできない。準備が整った時に、やめることができるようになる。家族を捨てても何の解決にもならない。逃げる者は決して解放されない。自由は創造を受け入れ、縛りは状況から逃げようとする。立ち止まりなさい。沈黙がドアをたたいた時には。手放し、自分自身を知るのです。手放すとは、知られているものに対して行うことではない。感覚を統御することができるのなら、その統御することをやめ、全託すること。その時、歓喜の力が、千人の宗教改革者でさえ生み出しえない力が流れ込み、あなたを変容させる。そして自らの献身の意味と統制からもたらされる知恵を知る。初めも終わりも知る。しかし、何よりも、あなたは知識そのものになる。宇宙意識に浸るとは、個性を知らないことである。個性には歪みがある。沈黙が完成した時、人はこのことを知る。現在・過去・未来が永遠なる沈黙の中に消える。

沈黙において、自らの無知を知ることができれば、高德である。無知を意識することは謙虚である。神に対する無知は人間的であり、人間に対する無知は神聖である。完全な沈黙は啓示である。啓示は沈黙という黄金の波の中で現れる。啓示において、人は思考を超える。思考は意識の単なる影にすぎない。意識が思考を形の中に投影するのである。神の神秘について説教や演説をするものは多い。しかし、人類に深い影響を与えることは少ない。なぜならこれらの言葉は沈黙か

ら生じたものものではないからである。神を論じることにはできない。神は沈黙において悟ることができる。無知な者はときに雑音が沈黙を圧倒してしまっていると感じる。沈黙が途絶えると人はせわしなくなる。深い沈黙に入ると、せわしなかった長い年月が永遠なる沈黙の内のほんの数秒であったと感じられるようになる。深い沈黙の中では、神は対象物ではなく、体験となる。雑音の世界では、人生が錯覚に支配される。

自然の沈黙は恵みである。これによって、沈黙に対する直観が目覚める。沈黙は言葉の前に存在し、そこからすべてが生まれ出てきたものである。沈黙を通して、人は自然界のすべてとつながることができる。沈黙はすべての者の中に唯一の実在として存在する。沈黙が目覚めて初めて、非実在のすべてがやむ。沈黙の奇跡は、死が予感されるところに神が現れることである。

沈黙の川に言葉の船が流れた時、音楽が生まれる。音楽における沈黙はいつでも私を魅了する。最高の音楽は常に休止、休息、沈黙の瞬間である。何も聞こえない、音、雑音が存在しない状態である。完全なる静けさ、静止・静寂はときに具現化された。沈黙は、音楽の最後の音が止んだ時に勝るとも劣らぬ静けさである。

愛しの父は受け取る価値のある唯一の贈り物を沈黙の中で与えてくれた。愛という贈り物である。「火のようにこれを広げよ」と父はおっしゃった。父は私に火を灯してくれた。この炎はひとつ残らずすべてを焼き尽くす。愛の炎を灯されるといふ恵みを受けると、人は沈黙の中で個性を手放す。このことの意味を言葉で表すことはできない。

沈黙は恵みである。沈黙において、人は思考から純粹な知識そのものへと上昇し、自らの真我の中で安らぐ。

1962年2月24日

All Love
BABA



Contact A. Hari Narayanan

<saitemplehari@gmail.com>

Shirdi Sai Temple, Mammiyur, Guruvayur, Kerala, India

0 487 655 4749

0 966 111 9999

<http://www.youtube.com/watch?v=4vobFyTUR8U>